

怒りに燃えて

全線区 全職場で

決起!

日新 勤労千葉

80.6.5

NO. 447

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
電話二二五八・九(公衆電話)二七二〇七

不当処分粉碎! 反動秋山局長追放!

勤労千葉は、五月三十一日以降、全支部・全職場において国鉄当局の不当処分攻撃に対し、怒りにもえて闘いに総決起した。
われわれは、この間つちかつた組織力・団結力のすべてを結集し、六月二日以降三日間にわたって闘い抜かれていく減産闘争を節として、不当処分粉碎・反動秋山局長追放の長期強靱な非協力闘争を貫徹しよう。

全くデタラメな不当処分攻撃!

勤労千葉は、去る五月三十一日、国鉄当局が強行した80春闘とあわせて「4・15津田沼」を口実とした布施組織部長に対する免職処分をはじめ、二八九名にもおよぶ大量不当処分攻撃に対し、第八回支部代表者会議の決定にもつぎ、六月一日以降、不当処分粉碎、反動秋山局長追放の長期非協力闘争及び減産闘争にたち上った。

今回の不当処分、とりわけ「4・15津田沼」を口実とした処分理由が全くデタラメなものであることはすでに明らかである。「4・15津田沼」で「職場秩序を乱した」として布施組織部長を解雇吉岡教宣部長を停職十二カ月の処分を強行した。しかし、考えてもみよ! 「4・15津田沼」は、「本部」反動分子二六〇名のヘルメット部隊が、勤労千葉のスト拠点である津田沼に押し入ってきたことにそもその根本があるのである。
さらに、国鉄当局・反動秋山局長が「職場秩序を乱した」というのであれば、「本部」反動分子による昨年のあの4・17津田沼襲撃はどう説明す

各線区の闘い

線区別	闘いの状況	
	6月2日	6月3日
総武快速	最高19分のベタ遅れ	最高31分でベタ遅れ
総武緩行	運休4本 最高23分で130本が遅れ	最高8分でベタ遅れ
総武本線	最高46分で28本が遅れ	最高25分で18本が遅れ
内房線	最高22分で54本が遅れ	最高27分でベタ遅れ
外房線	最高25分で64本が遅れ	最高25分で10本が遅れ
成田線	最高50分で63本が遅れ	最高60分でベタ遅れ
我孫子線	最高30分で46本が遅れ	最高34分でベタ遅れ
鹿島線	最高30分で20本が遅れ	最高60分でベタ遅れ
木原線	最高19分で15本が遅れ	最高13分で18本が遅れ
久留里線	最高18分で21本が遅れ	最高14分で20本が遅れ
東金線	最高14分で34本が遅れ	最高19分で22本が遅れ

総武線を一〇〇本も運休させ、津田沼電車区庁舎を二時間にわたって投石・ハンマー、かけや、竹竿などで破壊しつつ、片岡支部長に対する頭がい骨折など支部執行部に対し、あらん限りの暴力をふるった「本部」反動分子。
さらに、昨年一年間新小岩、勝浦をはじめ、多くの支部で庁舎乱入や手あたり次第の破壊を行なった「本部」反動分子。
国鉄当局は、こうした「本部」反動分子の行動については、一切不問に付し、勤労千葉に対する組織破壊のみを目的とした選別的な不当処分を強行してきたのだ。
このなかでこそ、当局が道理も踏みにじり、「本部」反動分子の哀願にこたえた「処分のための処分」の選別的な不当処分である。

不当処分粉碎・反動秋山局長追放の闘いは正義の闘い!

「本部」反動分子は、反処分闘争を一切放棄し55・10「国鉄三五万人体制」に全面協力することとひきかえに、闘う勤労千葉に対する「嚴重処分」を国鉄当局に要求してきたのである。
このことは、はしなくも「再建情報」No.27(6/1付)で「免職一名に胸なでおろす中野・中江一派」なる見出しでも明らかかなように、彼らは「勤労千葉への処分が軽すぎる!」と心情を吐露している。

こうした勤労「本部」反動分子の処分の哀願と階級的憎悪をむき出しにした国鉄当局一体となつた全くデタラメな大量不当処分攻撃に対し、われわれは、闘いに総決起したのだ。
この闘いこそ正義の闘いであり、われわれは自信と確信をもって長期強靱に闘いを貫徹しよう。

全線区で、全職場で闘いが爆発!

全くデタラメで理不尽な選別的な不当処分攻撃に対し、全支部・全職場で六月二日以降減産闘争(B行動)が闘われているが、怒りに燃えた全組合員の闘いは盛り上り、大きな成果を上げている。